

東交大同窓会会報

第 38 号

平成二十六年八月八日
東京交通短期大学同窓会
発行責任者 半沢貞夫
編集責任者 岡 幸雄

「温故知新」

同窓会会長 半沢 貞夫



一昨年「交通年鑑」を発行する、公益財団法人交通協力会から、国鉄改革から二十五年が過ぎたことから、「交通年鑑」の仕様、内容をリニューアルして欲しいとの要請を受けました。

昭和二十二年創刊の同書は、六十五年にわたって毎年発刊されてきた総合交通年鑑であり、内容も国土交通省（旧運輸省）、JR各社（旧日本国有鉄道承継法人）の各担当者が、直接執筆することから權威と信頼性のある年鑑として、交通関係企業実務者、研究者から支持されてきており、おいそれと変更ができるものか不安がありました。

書「（運輸省編…大蔵省印刷局発行）」と、卒業後入社した交通新聞社（旧交通協力会）が発行する「交通年鑑」四十五冊からの検討でした。久しぶりに見る昭和四十一・四十二年版運輸白書には赤線が引かれ、在学当時を思い出しながらの作業は一入感慨深いものがありました。

変更内容として、まず国有鉄道が民営化されたにも拘わらず、旧態依然のままであったことから、JR会社部分を经营主体の内容に絞るに絞るに絞る、またこれまでなかった交通関係の統計表、自動車・鉄道・航空・海運等を一体とした総合交通年表の掲載等を提案しました。一方、国土交通省鉄道局においても、六十五年にわたる運輸行政についてまとめられた類書は無く、歴史的資料としての意義を持つものであること、また現在の「国土交通白書」が、国土交通行政全体を対象としているのに対し「交通年鑑」は交通モードごとに編集され、各運輸行政分野における取り組み状況の一覧性を有していることから、引き続き、国土交通省の協力を得ることとなり、平成二十五年版

より、国土交通行政の政策課題、年度予算等の解説と記録に重点をおいた内容構成として充実が図られました。

母校、交通短大も創立後六十一年の歴史を誇り、三五〇〇名を超える卒業生の持つ意味は深く、実在校生への「特別教養講座」では同窓会メンバーによる講義が行われ、また学園祭においては相談会開催等で経験談の披露など活躍いただいています。

今後は、会報などを通じて学校・在学生との連携を密に、双方の発展に寄与することも同窓会の重要な役割かと思えます。同窓生皆様のご協力をお願いいたします。

いまを生きる「社会人力」

学長 小西 一雄



同窓会の皆様、はじめまして。二〇一三年四月に学長に就任いたしました。小西一雄です。この貴重な紙面をいただいた機会に御挨拶にかえて、現在の短大のことや学生のことなどについて若干の報

告をさせていただきます。

さて、短大には学生・教職員・保証人・卒業生とさまざまなステークホルダーがおりますが、そのなかでも短大の社会的評価を決めるのはなによりも卒業生の皆さんのご活躍です。幸い、交通業界をはじめとする各界での皆様の実績に後押しされて、本学は順調に発展してきています。いま一八歳人口の減少期を迎えて、全国では定員割れになったり、閉鎖となったりする短大が相次いでいます。しかし、本学は我が国唯一の運輸科をもつ交通短大というオンリーワンの強みを活かして、かつ六十一年の伝統に支えられて、入学定員を上回る志願者と入学者とを迎えています。

とはいえ、学生をめぐる就職環境は相変わらず厳しいものがあります。私は昨年三月まで三十二年間、四年制大学で国際金融論を中心に経済学を教え、研究してきました。アベノミクスの評価は経済学者によっても相当に異なりますが、私は、残念ながら、いま日本経済は「失われた二〇年」から「失われた三〇年」へと向かいつつあるのではないかと判断しています。しかし、そのような時代であればこそ、学生が社会にでるために必要な「社会人力」を十分に身につけてもら

う必要があります。そして自分の人生を切り拓くという学生一人ひとりの強い意欲を引き出すことが大切だと考えています。その点で、本学の学生の多くは交通業界をはじめとする希望する職種を比較的しっかりと持っており、その点で「社会人力」を身につけ、意欲を持つためのアドバンテージを持っています。しかし一方で、希望する職種につけない場合に「意欲」を失ってしまうという学生もいます。私たち教職員は、こうした学生のケアをしっかりすることが、本学の更なる発展のためにも重要だと痛感しています。

卒業生の皆様の益々のご発展をお祈りするとともに、今後とも後輩諸君へご支援を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

平成二十五年学事報告

副学長 松岡 弘樹

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと大慶に存じます。

さて、本年度も、平成二十五年の学事について簡単にご報告させていただきます。



一、新・退任教員について
(退任教員について)

本年度は新たに三人の先生方が専任教員として就任されましたので、以下、簡単に各先生方の経歴をご紹介させていただきます。

平成二十四年度をもちまして、田中宏司学長が退任されました。田中先生は、三十六年の長きに渡り日本銀行に勤務され、立教大学をはじめとした数多くの大学で教鞭をとられた後、平成二〇年度より本学の学長に就任されました。学長就任中は、「企業倫理」を担当され教壇に立たれると共に、短大の改革のために尽力されました。田中先生のご功績を称えらるる共に、今後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

又、平成二十四年度をもって、「簿記論」ご担当の佐藤良之先生、「観光学概論」ご担当の森住正明先生、「観光事業論」「ホスピタリティ論」「観光研究ゼミ」ご担当の小池鉄夫先生が退任されました。三人の先生方の短大への長年に渡るご尽力を感謝すると共に、今後の益々のご活躍を祈念させていただきます。

(新任教員について)

田中先生の退任に伴い、小西一雄先生が学長として就任されることになりました。小西先生は、三十七年の長きに渡り立教大学で教鞭をとられ、学部長他数多くの要職を務められた後に、平成二十五年度より本学の学長として就任されました。先生のご専門は経済・金融の分野で、この分野で数多くの著書・論文を発表されるとともに、多数の学会で幹事・理事として精力的に活躍をされておられます。短大においても、長年培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思っております。

又、新たに平成二十五年より、非常勤講師として赴任された先生方は以下の通りです。(カッコ内は担当科目)

有馬貴之先生(観光地理)、井戸大輔先生(交通マーケティング論)、大槻忠史先生(交通英語)、小野寺理文先生(コンピュータ実習)、手塚郁子先生(観光関係法規)、湯田聡先生(交通事業論・ホスピタリティ論)

二、学校行事について

本年度の学校行事に関しては、前期は、(四月)入学式・一年次および二年次オリエンテーション、(五月)前期一

年次学生相談・学外レクリエーション(シズンプラザにてボウリング大会)、(六月)第一回体験入学会・前期二年次学生相談・第一回オープンキャンパス、(七月)第二回体験入学会・前期試験、(八月)第二回・第三回オープンキャンパスの各行事を実施しました。

後期は、(九月)東交祭・後期ガイダンス、(一〇月)第三回体験入学会・後期二年次)学生相談、(十一月)第四回体験入学会・後期一年次学生相談・交通見学会(洋食マナー講習会・東京モーターショー見学)、(十二月)第五回体験入学会・専門ゼミ発表会、(一月)第六回体験入学会・専門ゼミ説明会・後期試験、の各行事を実施し、三月に卒業式を予定しております。

三、時間割について

平成二十六年度の時間割(案)と特別教養講座カリキュラム(案)が別表のようになり決まりました。次年度のカリキュラムに関しましては、昨年度に引き続き、基礎教養科目、キャリア関係科目の充実を主眼点中心として、カリキュラムの見直しを行っております。

又、特別教養講座につきましては、例年、講義をご依頼している前同窓会会長の川島一郎先生、同窓会会長の半沢貞夫

先生に加えまして、次年度は同窓会副会長の武田浩一先生に講義をご依頼しております。例年ご案内いたしておりますが、特別教養講座は公開講座となっております。ご来校して久しぶりに母校での講義をお聞きになって、学生時代を思い出していただくのは如何でしょうか。同窓会員の皆様のご参加をお待ちいたしております。

平成二十五年就職状況

キャリア室 桑原 賢二



同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか、この間高校生活を終えて、入学

してきた一年生が、早いもので今度は卒業生となりました。アルバイト・資格取得・部活そして学業と二年間は早く過ぎ去ってしまいました。大学生生活の速さを痛切に感じております。

大学生の就活開始時期は、毎年早期化の傾向になってきました。昨年の就活サイトのデータでも、国立公立学生を中心に「九月〜一〇月」が四十・三%で最も多

い。「十一月」の十七・八%と合わせると五十八・一%となり、十二月開始直前から動き出す学生が多いことがわかってきました。また、学内ガイダンスの開始時期となると、大半の大学では「五〜六月」が二十一・九%と、学校主導で活動をスタートさせる動きも見られる。

このことから、本学でも、一年生のキャリア授業前期は、概要・スケジュール等のスタートで始まり、後期からは、実践に進んでいます。後期授業では、鉄道会社人事担当者を招いての「会社説明会」さらに、二年生で内定獲得した学生の「内定獲得体験談」、又、OB（鉄道会社就職社会人）による、体験報告談とスケジュールは満載、後期は週二回の集中授業となっている。

このように就活時期のスタートが早くなった要因は、就活サイトのデータによると、女子学生を中心に「就活に対する不安を少しでも減らす為」三十九・二%と、「早く就活を始めなければ」という焦りがあった「二十一・七%で過半数を占めており、学生は「不安や焦り」といった心境から活動を始める割合が高い。更に、就活の準備は「不安」や「焦り」からスタート。開始時期は九月以降が約六割を占めています。又、誰に影響

を受けて活動したかという問いに対しては「自発的に（影響を受けていない）」始めた学生が三十二・四%で最も多いものの、「友人」二十六・三%や「就職室・キャリアセンター」二十五・〇%の影響を受けて始める学生も多い。

大学生の内定率も改善の兆しは見られませんが、本学でも、大手の鉄道会社や有名企業に就活が集中し、地方の企業や他企業・他業種へのチャレンジも混沌としています。そのため、数社（一〜三社）のみしか受験せず、結果が不合格になってしまうと、就活に幕を引いてしまう学生が多くなってきました。一方、数十社（四十〜八十社）受験する学生もあり、二極化の傾向が続いています。

就職内定率（平成二十五年十一月現在）は、平成二十六年三月に大学を卒業する学生の就職状況などを厚生労働省と文部科学省が共同で調査し発表したものによると、大学は七十六・六%で前年同期比一・六%の増加、短期大学（女子学生のみ）は五十八・六%で同〇・七%減少、高等専門学校（男子学生のみ）は九十八・七%で同〇・五%減少、専修学校（専門課程）は六〇・六%で同二・四%の減少であった。新規大学卒業予定者の内定率は前年同

期を上回り、新規高校卒業予定者も就職内定率（平成二十五年十一月現在）は七十九・二%と前年同期を三・四%上回った。しかし、求人倍率は内定率ほどの回復は見られず、就職環境は依然厳しい状況。

このような厳しい現実の中、約九〇名の卒業生が本学を巣立ち、実社会にはばたこうとしております。毎年のお願いでございますが、入社後は社会人としての自覚心構えなどについて、心強いご指導ご鞭撻を頂けたら幸いです。

今年の就職・進学希望者は六十九名（昨年六十六名）中、交通関連企業へ三十七名（昨年同時期四十二名）、一般企業へ一〇名（昨年同時期十四名）の合計四十七名（昨年同時期五十六名）の内定者を厳しい状況の中、送り出すことができました。（一月二十七日現在）

【交通関連企業別内定者数】

- JR東日本二名（昨年内定無）
- JR東海一名（昨年一名）
- 東武ステーションサービス五名（昨年二名）
- 東京都交通局一名（昨年一名）
- 多摩都市モノレール一名（昨年二名）
- 青い森鉄道一名（昨年内定無）

首都圏新都市鉄道一名（昨年四名）
 富山地方鉄道二名（昨年一名）
 横浜市交通局四名（昨年一名）
 北総鉄道一名（昨年内定無）
 JR東日本グリーンスタッフ一名
 （昨年三名）
 さらに七名（昨年八名）が四年制大学への編入学を決めています。

二十五年度・二十六年度入試状況

学科長 岡本 久



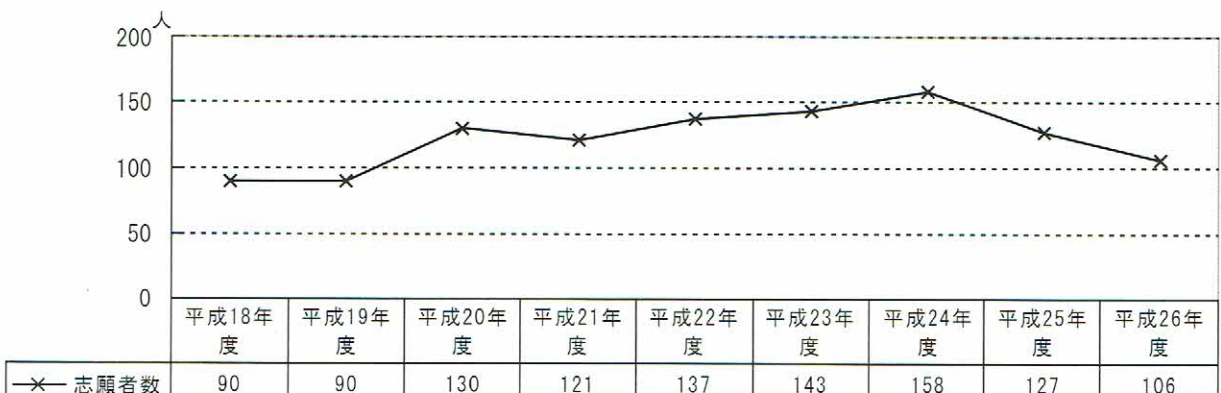
少子化の影響により、大学・短大受験生の年齢である十八歳人口は一九九二年（平成四年）には二〇五万人でしたが、

年々減少傾向を辿り、二〇一二年（平成二十四年）には四十二%減の百十九万人に落ち込んでいます。その中で、全国の短大への志願者数も十八歳人口の減少に比例し、一九九二年二十九万人の過去最高の志願者数でありましたが、二〇一二年には八十%減の六万人にまで激減しています。この結果、全国の短大では、二〇〇六年より毎年定員割れが出ており、

二〇一一年には私立短大の定員割れは二二五校、六十六・六%にも達しています。この背景には、四年制大学数の増加に対して、短期大学数の減少によって、四大指向が強まっていることが考えられます。今後、このままの状況が続く限り、短大志願者数は着実に減少を辿り、十年後には短大志願者数は五万人を割り込むことが予測され、早晚、短大としての使命が問われることになると考えられます。このような厳しい環境下にあつて、本学への志願者数も平成二十五年度より減少傾向を辿り始めましたが、幸いにして今まで定員割れには至っていない状況にあります。（合格者数…二十五年度一〇三名、二十六年度十二月末現在八十五名）。この背景として、本学が交通（鉄道）に特化した特徴を有しており、交通（鉄道）業界への登竜門として認知され始めている証左と言えます。しかしながら、本学を取り巻く環境は決して楽観視することはできません。今後とも、学生数の確保と同時に本学のレベルアップを図るべく、種々の施策を進めていきたいと考えています。



平成 18 年度～平成 26 年度入試状況（志願者数の推移）



注) 平成 26 年度は、12 月末現在であり、4 入試（一般社会入試 2、AO 入試 2）が残されている。

平成 26 年度 特別教養講座カリキュラム(案)

前期(土)13:10～14:40 (6月21日、8月28日・30日はオープンキャンパスのため、13:00～14:00)

| 開講日 | 講演者 | テーマ |
|-------|----------------------------------|---------------------------------|
| 4月12日 | 金ピカ先生 教育評論家、タレント | 落ちこぼれからの脱出 |
| 4月19日 | 石村 誠人 駅デザインとパブリックアート研究会代表世話役 | これからの駅舎管理のあり方 |
| 4月26日 | 小山 徹 元埼玉大学教授、さいたま市 LRT 研究会顧問 | 北欧の三都「さかのぼり都市交通史」 |
| 5月10日 | 森田 喬 法政大学デザイン工学部教授 | 地図に見る交通 |
| 5月17日 | 齋藤 順治 (株)JR 東日本ステーションサービス代表取締役社長 | 第二の出発点に立った JR 東日本グループ |
| 5月24日 | 平田 一彦 東武鉄道(株)常務取締役グループ事業部長 | 都市鉄道をめぐる経営環境 |
| 5月31日 | 尾崎 正明 東京急行電鉄(株)内部統制室専任主幹 | 鉄道運転士に求められるもの |
| 6月7日 | 荻原 俊夫 東京急行電鉄(株)営業本部営業推進部主査 | 鉄道員としての毎日 |
| 6月14日 | 木原 庄二 東日本旅客鉄道(株)北千住駅駅長 | 「顧客満足度 鉄道業界 No.1 をめざす」ための駅の取り組み |
| 6月21日 | 吉田 一宏 東武鉄道(株)東武池袋駅管区長 | 100周年を迎える東武東上線の今後について |
| 6月28日 | 前田 悦子 駿河台大学経済経営学部准教授 | 少子高齢社会の年金を考える |
| 7月5日 | 花上 嘉成 (財)東武鉄道共助会 東武博物館理事・名誉館長 | 鉄道の利用を楽しいものとするために |
| 7月12日 | 広田 健助 (株)全日警 人事本部 人材採用部長 | 私の夢「インド・ASEAN 広域高速鉄道網建設と日本の未来」 |
| 7月19日 | 渡部 史絵 鉄道ジャーナリスト、オフィス STJ 代表 | ローカル線のすすめ |
| 8月2日 | 櫻井 寛 鉄道フォトジャーナリスト・(株)エクスプレス取締役 | 「ななつ星 in 九州」と D & S 列車 |
| 8月30日 | 上野 貞行 東日本旅客鉄道(株)池袋駅駅長 | JR 東日本グループの果たすべき役割 |

後期(土)13:10～14:40

| 開講日 | 講演者 | テーマ |
|--------|-----------------------------------|--------------------------|
| 9月27日 | 小牧 康伸 山梨学院短期大学講師 | ホテル・レストランのサービスとマナー |
| 10月4日 | 武田 浩一 本学同窓会副会長 | 鉄道運転士として短大の後輩に伝えたいこと |
| 10月11日 | 平柳 聡 造景師(情景モデラー) | 風景としての鉄道の魅力 |
| 10月18日 | 半沢 貞夫 交通新聞サービス(株)「交通年鑑」編集部本学同窓会会長 | 「交通年鑑」にみる我が国の交通 |
| 10月25日 | 岩武 光宏 近現代史研究者 | 鉄道から見える日本近代史 |
| 11月1日 | 大島 功 東日本旅客鉄道(株)有楽町駅駅長 | JR 東日本の現状と企業が求める社会人について |
| 11月8日 | 川島 一郎 東日本鉄道 O B 会東京地方本部専務理事 | 元気な JR 東日本グループ |
| 11月15日 | 佐川 明朗 (株)テス事業推進室第一部長 | 鉄道の沿線環境の調和に向けた取組状況などについて |
| 11月22日 | 神立 哲男 日本貨物鉄道株式会社取締役・関西支社長 | J R 貨物の概要について |
| 11月29日 | 夏城 らんか 元宝塚歌劇団・女優 | 自分らしく輝こう |
| 12月6日 | 佐藤 美知男 鉄道博物館客員学芸員 | 70年前の鉄道一戦時下の鉄道の姿一 |
| 12月13日 | 田中 宏司 本学前学長・本学名誉教授 | 企業不祥事とコンプライアンス経営 |
| 1月10日 | 米山 淳一 (社)横浜歴史資産調査会 常務理事 | 鉄道遺産を活かしたまちづくりと地域活性化 |
| 1月17日 | 予備日 | |

(敬称略)

(1 年次) **平成 26 年度 時間割表(案)** (2 年次)

| 1 時限 | 2 時限 | 3 時限 | 4 時限 | | 1 時限 | 2 時限 | 3 時限 | 4 時限 |
|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|-----------------------|---|------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 13:10 ~ 14:40 | 14:50 ~ 16:20 | 16:30 ~ 18:00 | 18:10 ~ 19:40 | | 13:10 ~ 14:40 | 14:50 ~ 16:20 | 16:30 ~ 18:00 | 18:10 ~ 19:40 |
| 自然科学概論 A/B (佐藤信) 301 | 基礎ゼミ I (高橋) 302 | 実務基礎能力論 I (岸) 301 | 旅行実務論 (前集) ① (佐藤) 301 | 月 | 企業倫理(前) (渡部) 101 | | 経営管理論 (前) (原谷) 201 | 交通経済学(前) 自動車交通論 (後) (武井) 201 |
| | 基礎ゼミ II (大田) 202 | 実務基礎能力論 II (江間) 101 | | | | | 交通会計論ゼミ (大田) 302 | 経済政策論ゼミ (高橋) 302 |
| | 基礎ゼミ III (板井) 301 | 実務基礎能力論 III (田邊) 202 | | | | | | |
| | 基礎ゼミ IV (江間) 101 | | | | | | | |
| | 基礎ゼミ V (田邊) 201 | | | | | | | |
| 観光関係法規 ① (前集) (手塚) 301 | 情報システム論 (前) コンピュータ基礎(後) (柴田) 201 | 環境科学概論 A/B (中村) 301 | 政治経済(前) (板井) 301 | 火 | 鉄道経済論 (前) 交通需要論 (後) (栗田) 201 | 日本経済と金融(前) 世界経済と金融 (後) (小西) 101 | キャリア情報論(前) (栗原) 101 | |
| 現代社会(後) (板井) 301 | キャリア形成論 II (後) (栗原) 301 | 歴史学 A/B (板井) 201 | | | 交通情報論ゼミ (柴田) 202 | | | |
| 哲学 A/B (篠原) 101 | 交通概論 A/B (岡本) 301 | 観光学概論 A (前) (佐藤勝) 301 | 法学 A/B (松岡) 301 | 水 | 中国語 A/B (山口) 202 | 交通関係法規 (前) 経営法学(後) (松岡) 201 | 鉄道運転論 (前) (藤原) 201 | 交通英語(前) (大槻) 202 |
| 経営学 A/B (亀川) 301 | | 鉄道システム論 (後) (藤原) 301 | 保健体育理論 A/B (藤城) 101 | | 都市・地域交通論ゼミ (岡本) 302 | 交通経営論ゼミ (亀川) 302 | 交通マーケティング論(後) (井戸) 201 | 観光事業論 (前) (井戸) 201 |
| | | 英語 (小池) 202 | | | | | | |
| キャリアデザイン(前) キャリアコミュニケーション(後) (栗原) 301 | 旅行実務論 (前集) ② 観光プランニング実践(後) (佐藤勝) 301 | 観光地理(前) (有馬) 301 | 体育実技 A/B (山市) 体育館 | 木 | コンピュータ実習 II (岸) 202 | 簿記論(前) 交通環境論 (後) (大田) 201 | 交通会計論(前) (大田) 201 | |
| | | 会計の基礎(後) (大田) 201 | 統計学 A/B (岸) 201 | | | | 交通判例分析ゼミ (松岡) 302 | 鉄道史 (後) (辻村) 301 |
| 観光関係法規 ② (前集) (手塚) 301 | 経済学 A/B (高橋) 301 | コミュニケーション論 A/B (秋山) 101 | 文学 A/B (秋山) 101 | 金 | 交通史(前) 経済学史(後) (高橋) 201 | 社会政策研究ゼミ (長谷川) 302 | 物的流通論(前) (古井) 201 | コンピュータ実習 IV (花山) 202 |
| 観光学概論 B (後) (佐藤勝) 301 | | | 心理学 A/B (兼高) 201 | | | | コンピュータ実習 I (江間) 202 | |
| 特別教養講座 A/B (松岡) 301 | キャリア形成論 (前) 企業研究 (後集) (田邊) 301 | 企業研究 (後集) (田邊) 301 | | 土 | キャリア実践 (前) (田邊) 201 | 交通技術論 A/B (台木) 201 | 交通事業論(前) ホスピタリティ論(後) (湯田) 201 | |
| | | | | | | コンピュータ実習 III (小野寺) 202 | | |

会員解放区

昨年後半の出来事

第四十五回生 阪井 宏志



昨年は私にと
って、前半と後
半とで何もかも
が逆転する結果
になりました。

前半は特に何事もなく、一昨年までのい
い形・流れを維持できていました。
ところが後半になると、それまで十五
年余りにわたり、電車の清掃担当一筋で
歩んできた私の元へ、作業検査担当に
回って欲しいとの話が所長よりあり、そ
の後には下降線をたどる一方になってしま
いました。その話をいただいた当初から
様々なことに疑問だらけで、自信も持て
ませんでした。
七月下旬以降、品川にある我が社の研
修センターやJR三鷹車両センターで仕
業検査担当への配置転換にあたっての訓
練・実習を積みましたが、清掃の経験し
がなく、鉄道車両の知識がほとんどない
私には、正直厳しいという実感しかあり

ませんでした。

三鷹車両センターでは、わずかに二カ月の期間しかなく、暑い時季と重なり、疲労も蓄積して、物を覚えるどころではなくなりまして。その二カ月間、私自身としてはJRの方々には様々な形で迷惑をかけたという実感もなく、それらしい収穫は皆無といえるほどでした。

職場へ戻り、作業検査の見習いについて、十月以降、作業検査における最初の見極めこそクリアしましたが、やはり思ったほど進展はなく、作業検査の先輩方ともうまくいきません。とにかく孤立してしまつて、誰からも声をかけてもらえず、私からも話しかけられなくなりました。作業検査担当の一員としてやっていく自信がなくなり、限界・絶望を感じるまでになりました。

十二月のある日、清掃担当への復帰希望を職場に申し入れましたが、まだ結論は出ません。

昨年後半は本当に想定外のこと相次ぎ、その度に私自身には何もかもが足りないと感じ、それとともに色々な人に対して申し訳ないということしかありません。

今後、どの担当に落ち着くか、どんな流れになっていくかは読めませんが、少

なくとも昨年後半と同じ思いはしたくありません。

昨年後半の悪かったところを見つめなおし、どの担当に落ち着くにしても、少しでも早い時期に元のいい形・流れを取り戻せるように頑張ります。

(株式会社JR東日本運輸サービス 三鷹事業所 勤務)

「絆」

第五十七回生 多田 健士

私は現在、入社四年目、四月からは五年目になります。駅務掛、車掌を経験し、

今年の一月に単独したばかりの新米運転士です。この原稿を書いている頃は単独してから2週間ばかりしか経っておらず、一日の作業をこなすので精一杯な状況です。この会報が発行される頃には、余裕を持って作業をこなせていることを願うばかりです。今回はせつかくの機会ですので、一年弱に及んだ運転士見習いを通して体験したことを少しばかりではあります。書きたいと思います。

運転士の養成にあたって当社には養成施設がありません。そのため、グループ企業である小田急の養成所に委託性とい

う形でお世話になりました。右も左もわからない環境の中で生活することに不安しかありませんでした。そのような環境の中で、動力車操縦者運転免許取得を目指し励んでこられたのは、周りのたくさんの方の支えがあったからです。そのなかでも、一番の大きな存在は同じ目標を目指す同期たちでした。毎回、一人は脱落者が出てしまうという厳しい講習を無事に乗り切ることが出来たのは、誰一人欠けることなく免許取得すると目標を掲げ、共に悩み、共に励んできた同期がいたからこそでした。誰一人欠けることなく免許取得できたことは、本当に良い思い出となりました。

終わりに、字数の関係で書ききれませんが、この他にも見習い期間中に様々なことを学びました。今まで私は、これほど一年が濃いと感じたことはありませんでした。タイトルの「絆」は、同期が免許取得に向けて掲げたテーマです。私は今回の体験を内に秘めるのではなく、同じ業界を目指す短大の後輩たちに就職支援の授業などで伝えることで、お世話になった短大に恩返しをし、短大との「絆」を繋いでいけたらと考えております。

(江ノ島電鉄株式会社勤務)

社会人一年目を振り返って

第六十回生 内海 真空

私は昨年短大を卒業し、一般財団法人東京都営交通協力会に就職、現在は都営浅草線東銀座駅で働いています。東銀座駅は昨年四月にリニューアルした歌舞伎座のほぼ真下に位置し、銀座・築地も近いことから通勤・通学はもちろん、観光のお客さまも大勢利用されています。そのため初めて都営地下鉄を利用されるお客さまも多く、私の振舞い一つで都営地下鉄のイメージを大きく左右してしまうため、接客時には特に気を遣って仕事をしています。

お客さまに満足、ひいては感動を与えるサービスを提供するためには、丁寧な言葉遣い・立ち居振る舞いはもちろんのこと、豊富な業務知識も必要となります。それは、各種規程や首都圏各線・各駅の名前を覚えるといったことだけでなく、当駅をはじめとする東京の観光案内全般も対象となります。幸いこの仕事は「明け番」が存在するため、私は時間があれば明け番で東京の色々な所を巡るようになっています。よく聞かれる浅草・押上・秋葉原等はもちろんのこと、昨年は各地の博物館・美術館等も多く巡りました。

た、また、銀座・築地エリアも定期的に歩き、最新の情報を仕入れるようにしています。これらのことは、お客さまへの案内業務や会話の種に役立っています。

さて、社会人一年目を振り返る上で欠かすことの出来ないものの一つに「師匠」の存在があります。私の師匠は厳しい人で、研修中は怒られることも多々ありましたが、しかし、師匠の教えがあったからこそ今の自分があるのであり、師匠には感謝してもしきれないと思います。また、師匠とは「歴史好き」という共通の趣味があったので、東京の歴史的な名所と一緒に巡ったこともあります。

社会人になってまもなく一年が経とうとしていますが、まだまだ覚えることが多く、勉強の日々が続いています。しかし、今後とも努力を怠らず勉強を続け、先輩方と同じように人々の役に立つ人間になっしていきたいと思っています。

(一般財団法人 東京都営交通協力会 勤務)

鉄道のプロとして

第五十七回生 阿部 正大

私は、東海旅客鉄道株式会社（JR東

海）に入社しました。二カ月間同期と共同生活をしながらの厳しい新入社員研修の後、新横浜駅に配属となりました。新横浜駅では、出札（切符を売る人）改札（主に案内をする人）、精算所（精算が必要な方の精算）、ホーム担当（新幹線をご利用になる方が安全に利用できるようにホームの安全を守る人）を約3年間経験しました。現在は東海道新幹線の車掌として東京―新大阪間の日本の大動脈を支えています。車掌の業務内容としては新幹線のドアの開閉や車内の改札、巡回などを行っています。

この4年間で学んだことは、「安全」の大切さです。鉄道は一步間違えば人の命を奪ってしまいます。特に現在の仕事である車掌はお客さまの命を唯一奪ってしまう可能性のある業務です。一つ一つ決められた基本動作を実行し、事故を起こさないようにしています。また私たちが車掌がお客さまの命を守り、「安全安定輸送」を守っているという責任感を持ちながら仕事をしています。

次に大切になってくることはサービスです。私たち鉄道で仕事をしている人は、お客さまから運賃・料金をいただいで、給料をいただいています。特に新幹線は、高いお金をいただいているので、

それを自覚して仕事をしなければいけないと思います。新幹線は老若男女様々な方がご利用になります。一人ひとりが考えていることは違うので接客がとても難しいと感じます。しかし、自分がプラスアルファで何をしたらお客さまは喜ぶかなど考えて実行して喜ばれたとき、とてもやりがいを感じます。

これからの目標は東海道新幹線の運転士になることです。そのためにはこれからも鉄道のプロとしてお客さま一人ひとりの時間を大切にし、どんなことにも対応できる車掌を目標に頑張っていきたいと思っています。「鉄道のプロ」になるというのを常に意識し、これからの業務を頑張っていきたいと思っています。

(東海旅客鉄道株式会社 勤務)



会 計 報 告 書

(平成 24 年度)
(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

平成 25 年 4 月 1 日
東京交通短期大学 同窓会

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|--------------|------|-----------|---------------------|
| 項目 | 金額(円) | 適用 | 項目 | 金額(円) | 適用 |
| 繰越金 | 524,761 | | 集会費 | 68,400 | 東交祭・幹事懇親会 |
| 会費 | 450,000 | 5,000 円×90 名 | 事務費 | 945 | 宛名ラベル他 |
| 臨時会費 | 56,000 | 東交祭・幹事懇親会 | 通信費 | 556,410 | 会報発行・発送 東交祭開催案内等 |
| 寄付金 | 177,280 | 会員 4 名ほかより | 渉外費 | 129,800 | 記念式典会御祝・会長賞記念品 |
| 雑収入 | 145 | 利息 | 会議費 | 18,950 | 同窓会報編集打合せ等 |
| | | | 雑費 | 0 | |
| | | | 繰越金 | 433,681 | |
| 収入計 | 1,208,186 | | 支出計 | 1,208,186 | |

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 25 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫^印、村越 輝夫^印

お知らせ

一、会報バックナンバー
インターネットより、

<http://www.hosho.ac.jp/foukou/OB/index.html>

にアクセスしていただき、会報ボタンをクリックすると、第二十二号から第三十二号まで閲覧できます。

二、東交祭

平成二十六年九月二十日(土)～二十一日(日)に開催予定です。二十日(土)に同窓会懇談会も予定しています。詳細は右記ホームページに掲載します。

三、広告募集

東交大同窓会会報に掲載する広告を募集する予定です。詳細について同窓会事務局宛に書面もしくは電子メールでお問い合わせください。

四、同窓会事務局運営スタッフ募集

同窓会で行う行事や同窓会報およびホームページ作成をお手伝いいただける方を随時募集しておりますので、同窓会事務局宛てに書面もしくは電子メールでお問い合わせください。

五、原稿執筆案内

①題 材 自由

②執筆要領

・文章の場合

市販の原稿用紙か電子データの入ったメディアを郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度でお願いします。

・写真/イラスト/カットの場合

そのまま版下とします。電子データでも結構です。

いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を明記し、写真も添付してください。

③原稿締切 毎年一月末日

④送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一
東京交通短期大学 同窓会事務局宛
E-mail:foukouOB@gmail.com

編集後期

▼六十周年記年号をはさみ、編集長になって実質初めての会報作成となりました。仕事上では全くパソコンを使わないため、我が家のパソコンもインターネットとWORDでときどき簡単な文書作成で使う程度でまさに悪戦苦闘してきました。

▼世の中を見てみると、様々な「変化」があらこちで見受けられます。今号の記事内容も、様々な変化が起きているというものになりました。常に様々な変化が起きるなか、対応していくためには自身自身の変化も必要なのかな?と。

▼短大で長年お世話を受けた事務の竹田さんが三月末で退職されました。学生のお姉さん・お母さんの存在だっただけに、一つの大きな変化ではないでしょうか。

▼学校内でも様々な変化がある一方、変わらないもの一つに「仲間」があります。短大で知り合った同期の仲間、そんな仲間と会うきっかけに、九月の東交祭に皆さん来ませんか?学校もきれいになったけど、在学時代とそんなに変わっていませんよ。

▼本号、新卒業生の住所が確定を待っての発行としたため、発行が遅くなりました。

(付録)

平成 23 年 3 月 8 日

個人情報の取り扱いについて

東京交通短期大学同窓会

東京交通短期大学同窓会（以下「同窓会」という）は、「個人情報の保護に関する法律」にかかり、個人情報保護の重要性に鑑み、同窓会活動を行うにあたり、以下の個人情報保護方針に基づき、個人情報を適法且つ適正に取得・利用・提供・管理し、もって同窓会の保有する個人情報の保護に努めます。

1. 同窓会は、個人情報の保護を定めた諸法令及びその他の規範を遵守し、個人情報の保護及び取り扱いに努めます。
2. 同窓会は適法且つ適正な手段によって個人情報を取得し、利用目的の達成に必要な範囲において、個人情報を利用し又は提供することに努めます。
3. 同窓会は、個人情報に関する個人の権利を尊重し、自己の個人情報について、訂正・削除・開示等の要請があった場合には、妥当な範囲、合理的な期間で速やかに対応することに努めます。
4. 同窓会は、個人情報を利用目的の達成に必要な範囲において、正確かつ最新の内容に保つように努めます。
5. 同窓会は、個人情報の漏洩、滅失又は毀損の防止、その他個人情報の安全管理のために、不正アクセス・コンピューターウィルス等に対する適切な情報セキュリティ対策を講じるなど、必要かつ適正に管理を行うことに努めます。
6. 同窓会は、個人情報に関する取り組みを、今後も組織的に継続して行い、その内容に改善を図ることに努めます。

以上